

秋さけ漁業調整対策事業

藤田修央・黄金崎栄一
松本昌也・早川 豊
十三邦昭・上原子次男

発表誌名

昭和63年度 秋さけ漁業調整対策事業報告書（青森県）

抄録

1. 日本海

- ① 本県鰺ヶ沢町大和田地先において、63年10月下旬から63年11月下旬までに240尾の秋サケを標識放流し、132尾を再捕し、55%の再捕率であった。
- ② 132尾のうち本県での再捕は100尾で76%、秋田県では31尾で23%、山形県では1尾で1%であった。
- ③ 秋田県での再捕は、男鹿半島北側での再捕が多く、男鹿半島入道崎から放流した標識魚が本県、日本海沿岸で数尾再捕されていることから、放流地点の鰺ヶ沢周辺海域から秋田県入道崎にかけては、本県産及び県外産のサケ資源により構成されていることが予想された。従って、本県産及び本県産外の秋さけの量的関係を推定するには、今後の調査結果のデータを蓄積していくことが肝要であると思われる。
- ④ 昨年度の県外再捕率は58%と高かったのに対して今年度は24%とかなり低下した。

2. 太平洋

- ① 本県尻屋地域において、63年10月中旬までに699尾の秋サケを放流し265尾を再捕37.9%の再捕率であった。
- ② 265尾のうち本県での再捕は178尾の67%、北海道では33尾12%岩手では53尾の20%であった。
- ③ 北海道での再捕は10月下旬から11月中旬で見られ、岩手県では調査期間中再捕が見られた。
- ④ 県内産及び県外産秋サケの量的関係を推定するには、今後の調査結果のデータを蓄積していくことが肝要であると思われる。